

大麻事犯の検挙人員は、平成 26 年以降増加傾向が続いていたところ、令和 6 年は 6,078 人と過去最多となった前年よりも減少しましたが、引き続き **6,000 人を超える** 高い水準にあります。

特に、年齢層別では、**10 代・20 代が全体の 7 割を超える** など、**若年層** を中心とした大麻の乱用拡大が問題となっています。

大麻に関する法規制の改正 大麻は所持だけでなく、使用も犯罪です！

令和 6 年 12 月 12 日、大麻取締法及び麻薬及び向精神薬取締法の一部を改正する法律が施行されました。

大麻等 ※1 の所持、施用※2

麻薬及び向精神薬取締法

7 年以下の懲役 (営利目的以外)

※1 大麻及びその有害成分である THC (テトラヒドロカンナビノール：幻覚等の精神作用を示す麻薬として規制されている成分) をいいます。

※2 大麻等を不正に身体に投与・服用することは、麻薬及び向精神薬取締法で「施用」として処罰されます。

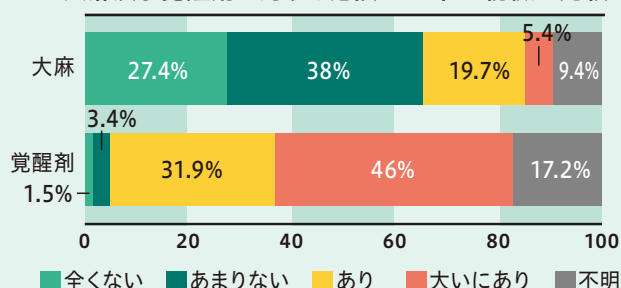
1 大麻乱用者の実態

令和 6 年の一定時期に大麻取締法で検挙された者のうち、違反態様が単純所持の者について、捜査の過程において明らかとなった大麻に対する認識等は次のとおりです。

危険（有害）性の認識の比較

大麻に対する危険（有害）性の認識は、「**なし（全くない・あまりない）**」が 6 割を超え、覚醒剤に対する危険（有害）性の認識と比較すると著しく低くなっています。また、大麻に対する危険（有害）性を軽視する情報の入手先については、「友人・知人」、「インターネット」が多いという結果となっています。

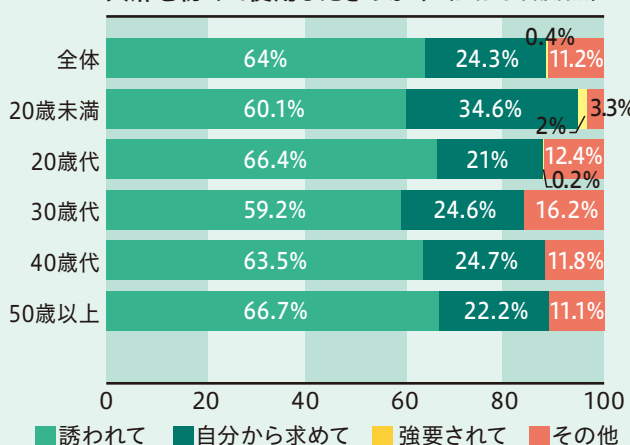
大麻及び覚醒剤に対する危険（有害）性の認識の比較



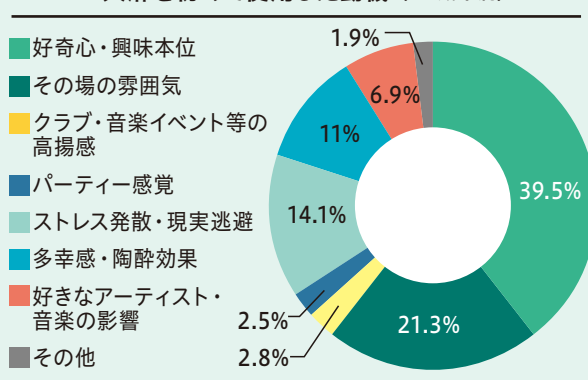
大麻を初めて使用したきっかけ・動機

大麻を初めて使用したきっかけは、いずれの年齢層でも「**誘われて**」が約 6 割を占め、使用した動機は 20 歳未満を例に挙げると「**好奇心・興味本位**」が最多であり、**次いで「その場の雰囲気」**が多く、身近な環境に影響を受けて、短絡的かつ享乐的に大麻に手を出す傾向があります。

大麻を初めて使用したきっかけ (犯行時年齢層別)



大麻を初めて使用した動機 (20 歳未満)



2 大麻の有害性

インターネット等では、「大麻は身体への悪影響がない」「依存性がない」などの誤った情報が氾濫していますが、大麻の有害性は特に成長期にある若者の脳に対して影響が大きいことも判明しています。

また、**大麻はうつ病や記憶の障害を引き起こすなど、メンタルヘルスにも悪影響を与えます。**
間違った情報に流されず、正しい知識で判断しましょう。

大麻の乱用による影響			大麻の有害性	大麻を長く使い続ける影響	
知覚の変化	学習能力の低下	運動失調	精神障害	IQ(知能指数)の低下	薬物依存
時間や空間の感覚がゆがむ	短期記憶が妨げられる	瞬時の反応が遅れる	統合失調症やうつ病を発症しやすくなる	短期・長期記憶や情報処理速度が下がる	大麻への欲求が抑えられなくなる

※出典：厚生労働省「薬物乱用防止読本：健康に生きようパート38」から引用

3 誘われたらどうする？ こんな言葉で誘われたら、あなたは どうしますか？

- 「1回だけなら平気だよ。」
- 「これをやれば、頭がさえて、成績が上がるよ。(リラックスできるよ。)」
- 「合法の国もあるくらいだから、体に害はないよ。」
- 「みんなやってるよ。友だちだろ？」



「はっきり、きっぱり」断る

少しでも迷っている様子を見せると、また誘われてしまいます。誘われたときは、はっきりと断りましょう。

- 「興味ないし、いらない。」
- 「僕は(私は) やらない。」など



話題を変える、その場から離れる

「そういえば・・・」などと話題を変えて、相手の誘いをかわしたり、何か口実(トイレ、電話、用事など)を作って、その場から離れ(逃げ)ましょう。

- 「そういえば、今日はこれから用事があるんだった。」など



相談する

(全国の都道府県警察が開設している相談電話の番号を10ページに掲載しています。)

一人で悩まず、親、警察などに相談しましょう。

STOP! 大麻乱用防止動画

警察庁では、増加する大麻事犯に歯止めをかけるべく、大麻乱用防止を呼びかける動画を作成するなどしています。



動画は
こちらから



動画は
こちらから

